

## 出水地域果樹産地の育成

### 成果の要約

- 1 加温大将季では、かん水技術改善等の取り組みが糖度上昇に繋がった。ヒリュウ台大将季はカラタチ台と比べ、加温栽培で糖度が高い傾向にあった。無加温栽培では糖度差が小さい傾向であったが、樹がコンパクトなため管理作業の省力化に繋がると考えられた。
- 2 甘夏類では、新選果場に対応した集出荷体制の取り組みが強化されるとともに、貯蔵管理の徹底により腐敗果率は減少した。収穫労力確保事例が2事例(収穫実習、農福連携)となった。
- 3 温州みかんでは、施肥調査をもとに施肥の見直しを行い、管理作業暦に反映させた。
- 4 省力効率的な園地づくり等に関する農家の意向把握ができた。
- 5 周年雇用志向農家4戸で法人が設立された。就業規則・給与規定が整備され、臨時雇用が確保された。

### 1 対象

- (1) 加温大将季 31 戸，無加温大将季 90 戸
- (2) 米ノ津東果樹中心経営体 69 戸，櫓木上管理組合 13 戸
- (3) 周年雇用志向農家 4 戸
- (4) J A 甘夏専門部会 166 戸，J A 甘夏専門部会 116 戸
- (5) J A 温州専門部会 116 戸

### 2 課題を取り上げた理由

- (1) 気象変動の影響を受けにくい高品質で安心・安全な果実の安定生産や市場の要望に対応した生産・出荷体制の確立により、農家の所得向上を図っていく必要がある。
- (2) 農家の高齢化や労働力不足等により、管理不足の園地(廃園)が散見されており、園地貸借の円滑化(人・農地プランの実質化によるマッチングの強化等)を図り、農地集積、省力・効率的な園地づくりを進めていく必要がある。
- (3) 担い手(新規就農者)の収穫作業を主とした労力補完対策の充実や、安定的な雇用確保に向けた周年雇用可能な農家(法人化)の育成により、持続可能な果樹産地づくりが必要である。

### 3 活動の内容及び成果

#### (1) 信頼ある産地づくり

##### ア 大将季の生産出荷体制の強化

無加温大将季のK-GAPの取得に向け、関係機関・団体に検討を進めた。

このほか、無加温大将季の長期貯蔵技術確立による有利販売を検討し、大隅加工技術研究センターと連携した試験を行う計画とした。

##### イ 甘夏類集出荷体制の改善

民間冷蔵庫での集約管理や家庭内選果選別・貯蔵管理の徹底等を図り、集出荷体制の改善に努めた。

J A 鹿児島いずみ新果樹選果場の利活用を検討し、新しい選果区分(3→4段階へ変更)に対応した集出荷体制を再構築することになった。



写真1 紅甘夏の出荷目揃え会

## (2) 省力・効率的な園地づくり

### ア モデル団地の意向集約

米ノ津東地域の人・農地プランの実質化の取組と連動し、果樹農家にアンケート調査（100名中63名回答）を実施し、果樹農家の意向集約が出来た。今後、話し合い活動に向けた地図化（見える化）を進めることになった。

農地利用意向調査(果樹農家)	
整理番号	<input type="text"/>
問1	今後(5年後)、果樹経営をどうしたいですか(1つ選択) ① 拡大したい ② 現状維持 ③ 縮小したい ④ やめる ⑤ 分からない
問2	問1で①を選択した方のみ答えてください(複数選択) ① 新規土地購入(果樹園に限る) ② 新規土地購入(果樹園以外) ③ 借受ける(果樹園に限る) ④ 借受ける(果樹園以外)
問3	問1で③又は④を選択した方のみ答えてください(複数選択) ① 貸したい ② 他作物へ転換 ③ 廃園
問4	問3で①を選択した方のみ答えてください(1つ選択) ① 相手が決まっている ② 相手が決まっていない
問5	問4で②を選択した方のみ答えてください(1つ選択) ① 誰でも良い ② 相手次第で貸す
問6	農業経営を受け継いでくれる後継者について(1つ選択) ① いる ② いない ③ 見込みあり
問7	省力・効率的な園地整備の意向について(1つ選択) ① 意向あり ② 意向なし
問8	問7で①を選択した方のみ答えてください(複数選択) ① 果樹経営支援対策事業 <sup>(注1)</sup> の活用による整備 ② 区画拡大・団地化 <sup>(注2)</sup> ③ かん水施設整備 ④ 農道整備 ⑤ その他( )
<small>(注1)優良品目・品種への改植・新植、小規模園地整備(園内道、土壌改良、かん水施設等)などを実施する際に活用出来る事業(事務局、JA) ※1戸から実施可 (注2)区画拡大・団地化の効果として、作業効率向上や規模拡大、農業飛散リスク軽減、担い手参入促進などへの期待 ※原則、集団で実施可</small>	

図1 農地利用意向調査内容

### イ 軽労機械の意向集約

草刈り作業の軽労化、安全性の強化を目的にリモコン草刈機の実演会を開催し、参加者の意向を集約した。農家からは、興味はあるが作業スペースの確保や価格の面が課題との意見が出された。



写真2 リモコン草刈機の実演

## (3) モデル経営体（周年雇用）の育成

令和2年4月に4戸で1法人が設立され、雇用確保に向け、社会保険労務士派遣による就業規則、給与規定作成を支援した。雇用の募集が行われ、臨時雇用2名が確保された。また、地域高齢農家の果樹園の受託が開始された。



写真3 就業規則・給与規定の検討



写真4 法人による果樹園の受託作業



#### (4) 高品質果実の安定生産

##### ア 施設大將季

(ア) 加温大將季の高糖度・外観品質の向上  
簡易土壌水分計の活用や少量多頻度かん水を推進した。糖度は高く高品質果実生産に繋がった。また、ヒリュウ台大將季は糖度が1度高い傾向にあった。

一部園地で裂果，日焼け，緑斑等の症状がでたため，次年産の対策を検討する。



写真5 適正着果, かん水技術講習会



写真6 簡易土壌水分計を活用した実証

(イ) 無加温大將季の高糖度・外観品質の向上と生産拡大推進

かん水技術の改善，適期防除等による品質向上を進めたが，やや低糖度で，こはん症が発生した。

なお，ヒリュウ台大將季は糖度上昇の期待は小さいが，管理作業の省力化に繋がる傾向にあった。

#### イ 甘夏類

(ア) 温暖化に対応した甘夏類の安定生産

摘果や防除，家庭内貯蔵管理の徹底を図り，安定生産に努めた。近年，問題となっている収穫前落果（後期落果）は，前年産より減少したが，開花期～成熟期の気象変動の検証と対応策について継続的な調査・検討が必要となった。また，紅さわ香の生育・品質調査を行い，品種特性把握を行った。



写真7 貯蔵庫管理指導状況

(イ) 収穫労力の確保支援

桐野・筒田地区の果樹農家の労働力補完対策や農地中間管理事業導入による果樹振興（廃園対策含む）に係る話し合い活動を支援した。鶴翔高校による収穫実習に加え，農福連携の導入を支援し，2事例となった。

また，地域内に樹園地管理組合（仮称）を設立し，農地中間管理事業を導入した果樹振興に向けて取り組みが活発化してきた。



写真8 果樹振興に向けた話し合い活動



写真9 紅甘夏収穫実習事前講義

ウ 温州みかん

(ア) ハウスみかんの外観品質向上

病虫害発生予察による適期防除指導や果実品質調査で外観品質向上を図ったが、着色不足により、目標を下回った。

(イ) 露地温州みかんの安定生産

施肥管理の検討を行い、大玉果安定生産を図った結果、年間の施肥管理について担当者とアンケート結果を元に検討を重ね、管理作業暦に反映させた。



写真10 ハウスみかんの酸度滴定

## 4 今後の課題

- (1) 無加温大將季のK-GAP取得支援
- (2) 甘夏類の集出荷体制の整備及び腐敗果率の高い農家の指導強化
- (3) 省力・効率的な園地づくりに向けた話し合い活動の支援
- (4) 周年雇用法人の作業体系・環境の整備
- (5) 大將季の高品質果実生産技術の確立
- (6) 甘夏の安定生産技術(後期落果対策等)の継続的な検討・評価
- (7) 労働力確保に向けた継続的な活動支援
- (8) 温州みかんの施肥管理技術の確立